

令和4年度第1回伏見区基本計画推進区民会議 会議録

日時 令和4年5月16日

午前10時開会 午前11時閉会

場所 伏見区役所1階ホール

1 議題

(1) 伏見区役所の令和3年度の実績及び令和4年度の実績予定

ア 三所共同事業について（伏見区民活動支援事業、伏見連続講座）

イ 区役所・支所の主な取組（伏見区役所、深草支所、醍醐支所）

2 発言要旨

伏見区長から開会のあいさつ

- ・ 普段から伏見区政への御協力、地域のリーダーとして率先して地域活動を支えていただいていること、深くお礼申し上げます。
- ・ この間、伏見区基本計画推進区民会議はコロナ禍の影響で開催が難しくなったが、去年は皆さんの御協力を得て一度開催することができた。コロナ禍で地域のまちづくりに関わっていただく方が一堂に会して話し合う場を持つことが難しくなっているが、コロナ禍だからこそこのような機会が大事だと改めて感じている。
- ・ コロナウイルス感染拡大は、現状は高止まりで、ゴールデンウィークを終えてどうなるか見極めている状況である。皆さんの御協力をいただいてワクチン接種も3回目を進めているが、地域でもお声掛けしていただき、若い世代から高齢の方まで地域での健康の確保に向けて取り組んでいければと考えている。
- ・ そのような状況の中、徐々に地域活動は動き出している。皆さんの様々な工夫、活動方法の検討などを通じて、少しずつ根付いているのは大変ありがたい。
- ・ 昨年度は、皆さんに議論していただき、伏見区基本計画を取りまとめることができた。「住みたい」「住み続けたい」「子育てしたい」「働きたい」「訪れたい」まち伏見区に向け、区支所一丸となり、皆さんと一緒に進めていきたいと思うので、御支援・御協力を賜りたい。

橋爪座長から開会のあいさつ

- ・ 令和4年度第1回の会議にご参加いただきありがとうございます。これまでコロナ禍の影響で、開催できたりできなかったりという状況であったが、昨年度は皆さんのご協力を得て、「住みたい」「住み続けたい」「子育てしたい」「働きたい」「訪れたい」まち伏見区を目指す新たな伏見区基本計画を策定することができた。
- ・ 今回の伏見区基本計画は計画期間が5年なので、3年ほどで次期計画の検討が近づいてくる。そのような中、伏見区基本計画推進区民会議は、区基本計画の進捗管理を行う機関なので、進捗管理を行うとともに新たな課題への対応に向けて皆さんで意見交換していきたい。
- ・ 京都市の観光振興計画を取りまとめる作業に参画した。コロナ前は多くの観光客に訪れていただくのは良いが、多すぎたことでさまざまな問題が起こっていることが報告されていた。コロナ禍で京都市への来訪者は減少したが、現在徐々に戻りつつある。その中で今後に向けた議論として、市民と観光客、事業者の「三方良し」の持続可能な観光を進めていくという方向性をしている。
- ・ 2025年には大阪・関西万博が開催される。関西全体で盛り上げる取組になるが、伏見区としては、舟運で淀川を船が上がってくるという点でつながりがある。大阪市でも、淀川の堰の改修などが行われ、大

阪湾から船が通行できるようにする取組が進められている。また一方で、兵庫県との連携の中で、大阪から淡路への航路の復活が検討されており、うまくいけば伏見から大阪で船を乗り換え、淡路に行くという船旅の実現も考えられる。ゆったりした小さい船での旅、ひいては舟運をつないで高瀬川を上り琵琶湖まで、と行ければよい。昔あった伝統を生かした発展を考えていければと思う。

- ・ 2025 年は昭和 100 年に当たり、記念事業などが行われると思うが、その後伏見区 100 周年を迎えることとなる。次の区基本計画は区政 100 周年に向けたものになる。現在も空き家問題など新たな課題も増えおり、少子高齢化も深刻になっていくが、しっかり皆さんと対応策を考えていきたいと思う。

意見交換（三所共同事業 支援事業・連続講座について）

橋爪座長

- ・ 区民活動支援事業の重点支援枠では、本年度から従来の 3 事業に加えて、新たな分野を加えて募集されている。若者活躍など、大学生なども応募してもらえるようになっている。伏見区で活動していれば他地域から参加した活動も可能ということ。募集は終わっているのですが、これから審査をよろしく願いたい。
- ・ 連続講座も継続して実施されている。立ち上げ段階から見ているが、参加する団体も多くなり、広がりが出てきているのはよいと思っている。

加藤委員

- ・ 三所共同事業など、しっかりした活動を積み重ねてきたこと、今後でも取り組んでほしい。
- ・ 支援事業に関して、自治会・町内会活動が低下している地域も見受けられる。そういう地域ほど、プロジェクト型の申請が難しくなっている。地域の暮らしの基盤でもあるので、自治会・町内会を元気にするようなアプローチ、地域とテーマ型アクションをクロスさせていくようなサポートを行政にはお願いしたい。
- ・ 連続講座はすばらしい取組になっている。すでに取り組んでいるかもしれないが、市民向けにわかりやすく、これまでの蓄積をまとめたものを出せば喜ばれるかなと思う。やりっぱなしにならないように、後のフォローとしてできればと思う。

橋爪座長

- ・ 連続講座のアウトプット、冊子的なものやHPでまとめたものの発信などはされているか？

事務局

- ・ 開催一覧はHPに掲載しているが、個々の開催内容の報告はできていない。一方でコロナ禍の中、Y o u T u b e などで配信したものは、後でも見てもらえるようになっている。開催した中で得られた貴重な内容など、引き継いでいければと思う。

橋爪座長

- ・ オンラインでの活用、二次利用などは許可がいえると思われるので、要調整の上でお願いしたい。開催内容をまとめたものが節目ごとにあればよいと思う。

意見交換（区役所・支所の取組について）

高橋委員

- ・ 醍醐地域で開催されている中学生等への支援について、お話を聞くとほっとさせてくれる内容でとても良い活動だと思う。その上で、今後は一歩踏み込んでヤングケアラーの問題にも焦点を当て

てもらえればと思う。行政の福祉部署でも調査されていると思うが、地域や学校で実際に中高生のヤングケアラーが問題になっているケースを知っている。そのような子どもたちに、君たちのことは忘れてないよということを発信していけるようなやさしいまちになればよいと思う。

事務局

- ・ ヤングケアラーは、広く認識されている問題だと思う。市役所本庁とも連携して、実態の把握や今後に向けた対策を考えていく必要があると思っている。

橋爪座長

- ・ 大岩街道について、この間ずっと20年以上続く課題だが、大学生が参加して取り組まれていることは良い方向性だと思う。また取組の経過など、この場で報告してほしい。

岩井委員

- ・ 醍醐地域ではコミュニティバスが走っている。来年の2月16日で20周年を迎えるが、何もないところから企業の協賛を得ながら進めてきた。利用者も今年度で1,000万人に到達する見込みだ。運営は毎月会合を開いて、苦情対応などしながら取組を進め、市民の足として定着してきた。
- ・ 当初は高齢者のためとして始めたが、現在は子どもたちも含めて幅広い地域住民に利用してもらっており、コミュニティバスとしての役割を果たすようになっている。
- ・ 今後も継続していくには、財政難の中だが行政の応援も考えていただきたいと思う。伏見区の中でもバスに対する色々な要望がある。それらに対応する窓口づくりなども含めて、取り組んでいただければと思う。

橋爪座長

- ・ 20周年を迎えるとのこと、おめでとうございます。継続は力なり、今後もコミュニティの維持のため、地域の足としての活動を継続していただければと思う。

谷内口委員

- ・ 京エコロジーセンターも20周年を迎える。現在は青少年科学センター、さすがに京都と連携した取組なども進めている。電気バスの試験的な取組などもある。
- ・ 公共交通の維持等は、地域コミュニティだけでの取組では難しく、企業との連携が重要になってくる。今日の事務局からの報告をお聞きしていて、今後の取組を考えていくにあたり、不動産事業者との連携などもありうるのではないかなと思う。行政が事業者と地域のマッチングやPRなどを行い、そこに他の団体もかかわっていくようなかたちも考えられる。伏見区にはまだ様々な事業者がおられる。
- ・ 当センターも、脱炭素社会に向けた取組を基本としながら、できることがあれば協力するので、ぜひお声掛けいただければと思う。

高橋委員

- ・ 本日、文化協議会の中西会長が欠席のため、代理でお伝えする。
- ・ 文化協議会では、10月29日、30日に御香宮神社で区民文化祭を開催予定。また3月5日には呉竹文化センターで区民文化フェスティバルを開催予定である。
- ・ 取組を検討していく中で、これから活動をアピールし広げていくには、やはり文化の継承者を育成することが急務という話が出ている。

村井副座長から閉会のあいさつ

- ・ 伏見区基本計画の策定に当たっては、将来に向けて様々な話し合いを行ってきた。その中で、橋爪座長からは経験を生かした幅広いお話をいただくことができた。
- ・ 昨年策定された伏見区基本計画は、本年度から本格的に推進していくものである。今日の会議を通じて、有意義な御意見をいただくことができた。これからのまちづくりに向けては、皆さんの活動が大変重要になってくる。伏見に住んでよかったと思ってもらえるように、それぞれの立場からの御協力をお願いしたいし、私もその実現に向けて頑張っていく決意を新たにしている。